

妊娠中の皆様へ <新型インフルエンザの感染予防のポイント>

今回の新型インフルエンザは 弱毒性と考えられておりますが、国内でも拡大の一途をたどっており今秋以降大流行の可能性があります。インフルエンザの感染防止対策の第一はワクチンなのですが、残念なことにまだワクチンの製造が間に合わないのが現状です。よって、感染予防が特に大切なポイントです。

<感染予防のために、皆さまへのお願い>

- 1) あまり人混みの中に出ない（外出の際はマスクを着用しましょう）
- 2) 入院中のご面会は最小限とし有熱者、幼児、多人数の面会は自粛下さい。
- 3) 熱が出た際の受診に関してはまず病院にお電話下さい。
- 4) 出来るだけ母乳で育てましょう

<具体的なアドバイス>

- 1) 人混みの中に出ていかないこと！

出来れば買い物も回数を減して買いだめした方がいいです。

イベントや満員電車などでの移動も控えてください。

- 2) マスクの使用・手洗いの励行

マスクは不織布製のものがお勧めです。鼻までしっかりと覆うようにしましょう。マスクをはずすときは耳のひもを持ってください。覆っている面を触るとせっかく防いだものが手のひらに付着します。手洗いは、石けんをしっかりと泡立てて指（特に親指が外れることが多いようです）指の間、手のひらから手の甲にかけてしっかりと時間をかけて洗ってください（せめて2分以上）。

- 3) うがい（水道水でも、ぬるま湯でも OK）

うがいは外出から戻った際など頻回に行いましょう。

妊娠中の皆様へ <インフルエンザにかかったかなと思った時の対策>

急な発熱とせきやのどの痛みなどの症状がありインフルエンザにかかったかなと思ったら、かかりつけの内科のお医者さんや身近な医療機関（発熱外来、感染症外来など）にまず電話をして、受診できるかどうかを確認してください。同時に、当クリニックにもお電話ください。当クリニックへの電話は、夜間や休日でもけっこうです。

電話をしないで、直接、医療機関等に行くことはぜったいにやめて下さい。

何時に、どこに行けばよいかなど、医療機関等から指示がある場合は、それに従ってください。医療機関に行く際は、マスクを着用する、せきエチケットを守るなど、他の人に感染を広げないように注意してください。

<新型インフルエンザにかかっているときに分娩する場合>

インフルエンザのために高熱が出ますと赤ちゃんがお腹の中で苦しくなることがあり、帝王切開になることも稀にあります。また、重症の場合は新潟県内の周産期センター（感染症病棟がある施設）へ緊急に母体搬送されることもありますことをご理解ください。軽症の場合は、当クリニックにての分娩になりますが、院内感染防止のために個室での隔離管理となります。面会も制限されます。分娩後は赤ちゃんを24時間母子同室となります。赤ちゃんは元気で保育器に入ります。何かとご不便をおかけするかと思いますが、感染の拡大防止のためです。ご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<新型インフルエンザの診断と治療について>

インフルエンザの迅速診断キットが陰性になることもよくありますので、陰性でも症状や経過等の状況からみて新型インフルエンザと診断されることもあります。妊娠中は重症化や赤ちゃんに及ぶ害などから積極的な治療が勧められています。ウイルスに対する治療としては48時間以内のタミフルの服用が勧められています。タミフルやリレンザは妊娠中や授乳中に使用しても問題ないとされております。

授乳中の産後の皆様へ

<新型インフルエンザについての対策>

<授乳中の場合は>

母乳は、ご自身の赤ちゃんへの感染を防ぐ可能性が高いとされています。もしおかあさんがインフルエンザにかかっても母乳を中止する必要はありません。母乳中の免疫物質のおかげで人工乳の子よりも継続した子のほうが感染を防ぐ機能は強くなります。抗ウイルス薬を飲みながらの授乳も問題ありません。

ただし、高熱があるなどのインフルエンザの症状がある時期は、直接哺乳してはいけないというのが、日本産婦人科学会の見解です。その場合は、母乳を絞って哺乳瓶で代理の家族が赤ちゃんに与えます。また、お母さんの症状が落ち着くまでは、母子別室の必要があります。

解熱して症状が落ち着いた後も約1週間程度は、おかあさんがマスクをしてしっかりと手洗いをしておかあさんからの空気感染や接触感染を防ぐ必要があります。

おっぱいからはインフルエンザは感染しないとされています。

まず、予防対策をしっかりと、もし罹患したとしてもあわてずに主治医と連絡を取り合ってくださいと治療しましょう。

<新型インフルエンザワクチンの現状について>

当クリニックでは、例年9月～10月頃には、季節性インフルエンザワクチンの接種のご案内をしておりますが、今年は新型インフルエンザの発生・流行により、9月初旬の時点で見通しが立っていません。季節性インフルエンザワクチンの供給量は例年よりも減少する見通しですから、例年接種を受けていた方々全員に季節性インフルエンザワクチンが行き渡らない可能性があります。一方、新型インフルエンザワクチンの製造は、年内に1300～1700万人分しか国内で製造できないようです。新型インフルエンザワクチンの不足により接種に優先順位をつける必要があります。世界保健機関（WHO）の勧告では、必要な医療体制を維持するため優先順位の筆頭に医療従事者を挙げています。その上で、妊婦や慢性的な持病がある生後6カ月以上の人などを考慮するよう提案しています。日本の厚労省の方針も同じようになる見通しです。

新型インフルエンザワクチンについては、集団接種か個別接種か、接種回数や間隔、接種量、費用負担なども全く不明です。このため、お問い合わせを頂いても、「まだ何もきまっておられません。」としかお返事できません。ご了解ください。

新型インフルエンザワクチンについても、従来の季節性インフルエンザワクチンについても、**対応策決定次第、当クリニックに通院中の全て妊婦様と1カ月健診までの皆様にご連絡申し上げますので、いましばらくお待ちください。**

その間、感染予防がとても大切です。

- 1) あまり人混みの中に出ない 買い物等は買いためしておく
- 2) 外出の際はマスクを着用しましょう
- 3) 熱が出た際の受診に関してはまずお電話下さい。
- 4) 手洗い、うがい（水道水でも、ぬるま湯でもOK）を頻繁に。

平成21年（2009）9月2日

茅原クリニック 院長 茅原 保 （拝）